

## 恵庭市総合計画審議会総合調整部会（会議記録）

会議名	恵庭市総合計画審議会総合調整部会 第2回 会議	
日時	平成17年7月1日(金)午後2時00分～午後3時50分	
会場	市役所(3階)第1委員会室	
出席者	委員～出席7名 市側～竹村企画財政部長、斉藤企画財政部次長、菅原企画調整課長、吉田主査、佐々木主査、山口主事	
記録	氏名	企画財政部企画調整課 主事 山口 晃弘

### 1.開 会

### 2.審議事項

- (1) 基本構想検討スケジュールについて
- (2) 計画想定人口について
- (3) 将来都市像について

### 3.その他

### 4.閉 会

#### ○ 会議の概要

(村本会長)第2回目の総合調整部会を行います。各専門部会の議論を経てきています、それぞれいろんな話がでたと思いますが、今日はそれらを考慮した上で、計画想定人口と将来都市像について審議したいと思います。まずは、計画想定人口について、事務局より説明願います。

(菅原課長)人口推計の手法として、コーホート法とトレンド法を使い推計してみました。コーホート法については、全道平均の出生率を用いたものと、全道平均より高い恵庭市の出生率を考慮した2パターン考えました。更にそれぞれについて、H2～H12の10年間の変化率とH7～H12の5年間の変化率を用いて、コーホート法については、計4通り推計しました。トレンド法については2通り推計しました。この中で、一番妥当と思われる推計は、全道平均より高い恵庭市の出生率を勘案し、恵み野の急激な人口増の影響が残る10年間の変化ではなく、H7～H12の5年間の変化率をもちいたコーホート法によって算出された、約73,300人と考えます。

(村本会長)やはり、短い5年間のほうがいいのでしょうか。

(竹村部長)10年という考え方もありますが、先程課長のほうから少しありましたが、10年間だと、恵み野がまだ家が張り付いて人がだいぶ増えています。資料にあるとおりH2～H5は年間1,800人から1,500人位増えてますが、平成8年以降は1,000人以上増えている年はありません。それを考えると5年間の変化を考えたほうが、動きも安定していて間違いのないのかなと思います。

(島田委員) だいたいいいところなのかなという気はします。

(井関委員) 多めに見たいという考えもあるかと思いますが、私は少なめで見て、73,000人ぎりぎり位で見といたほうがいいんじゃないかなと思います。

(玉川委員) 端数の問題がありますが、73,000人から75,000人位でみていいのかなと思います。あと、端数については皆さんで話し合えば。

(神田委員) 私は、多くみたほうがいいのかと思って、確かに出生率は落ちていますが、そこはもっとみんなで危機感を持って、子育て支援の政策とか、環境整備をしっかり行って、人が増えていくような夢を持ったほうがいいと思っていたのですが。ただ、こうしてきちんと推計されているなら、この数字でもいいのかと。

(橋本委員) 教育でも、夢を持つことが大事なんですけど、今の経済状況や現実を考えると、ぎりぎりの73,000人くらいなのかなと思います。

(村本委員) 恵庭の出生率が高いのでそれを加味したとっていましたが、実際どれ位の出生率ですか。

(斉藤次長) 少し古いデータになってしまいますが、平成14年の数字で、全国が1.32、全道が1.22、恵庭が1.38でした。全国と比べても一応高い率は保っています、それで、全道の出生率よりも10%高く試算しました。

(富永委員) 私は夢の部分を考えれば80,000人でも、そんなに多いとは思わないんですが。

(島田委員) 仮に多く見込んで80,000人で見たとときと、ぎりぎりの73,000人で見込んだときの、それぞれメリット、デメリットはどんなことが考えられますか。

(竹村部長) まず両方のデメリットですが、多くみこんだ人口でまちづくりを進めていけば、過剰投資があるのではないかと心配があるようです。但し、実際に投資に影響しそうな部分は、下水道などの、本当に何十年という長期的な投資の部分で、その他の道路とかの投資にはそれほど影響ありません。73,000人を想定した場合には、例えば今後10年間で民間等が新たな宅地開発をしたいといったときに、開発許可が下りない可能性があります。現在、北海道からの都市計画の人口配分で、既存の市街化調整区域と市街化区域に最大72,600人まで住むことが出来ると見込まれています。73,000人を想定人口とした場合、人口が増えてもほとんど既存市街地で間に合うということで、新たな開発が認められない場合があります。恵み野と島松の間を開発したいといった民間業者が今後10年の間に出てきた場合、次に都市計画を見直すまで待ってください、といったことになりかねません。ぎりぎりに見込んだ場合、本当に夢がなくなってしまうのかなと思います。メリットについては、デメリットの逆で73,000人の場合は、過剰投資の心配が無い事で、多めに見込んだ場合は土地利用として開発の可能性が残せることです。

(井関委員) 北海道の人口配分は、いつ頃からやっているんですか。あと、市町村合併とか、道州制とかあった場合は、それも変わるとかはないですか。

(竹村部長) 恵庭市は昭和47年から市街化区域と市街化調整区域を分ける線引きを行っています。これは都市計画法が変わらない限り、大きく変わることは無いでしょう。

(島田委員) そういうことであれば、人口推計では73,000人位だけど、将来の開発の可能性として残しておかないと、開発できない可能性もあるので、多めに見込んで80,000人でもいいのかなと思います。前回と同じなのはどうかと思いますが。

(竹村部長) 北海道から恵庭市への人口配分ですが、実は全体で80,000人いいですよと言われています。と申しますのは、先程の既存のまちで72,600人そして、新規に7,400人分は開発していいよという事で、80,000人となっています。ただ、7,400人分の開発というと、以前断念した西島松の全体の開発とほぼ同数になります。さすがに、あの地区全部の開発となると相当難しいものがあるのかなという気もしています。例えば、全部は無理でも、区切りの良いブロックということで考えた場合、一般的には、3,000人位の人口が必要と考えられています。

(島田委員) あまりぎりぎりになると、開発が全く出来なくなってしまって仮に開発したいところができた時に大変な事になるし、かといってあまり多く見込んで根拠を示せといったときに説明がつかないということですね。

(井関委員) ぎりぎりだとそういった問題もでるんですね。まあ、土地利用のことを考えると、そういった多めに見込む部分は必要な気もしますね。

(村本委員) 10年後の事を今考えているわけですが、10年間開発もなにもまったくしないということであれば73,000人というのが妥当なんでしょうけれども、10年間の中で、ひょっとしたらあるかもしれないということで、期待も込めて増える部分は理解できるかなと。ただ、さっき言った、80,000人となったら本当かなという気もするので。それであれば3,000人位余裕を持たせて、76,000人でも理解は出来るのかなと。

(富永委員) 第3期のときは下方修正しましたよね。

(竹村部長) 第2期の84,000人から、80,000人にしました。

(富永委員) そのときも、コーホート法でいくつかパターンを想定して作ったんですか。

(竹村部長) そのときも過去の係数を考えて、コーホート法で77,000人とでた人口に期待の部分として、約3,000人加えて80,000人としました。恵み野が伸びているときの人口動態が係数になっていますから、今より多くでましたけれど。その後急に人口の伸びが鈍化してしまって。更にそのときは、民間開発会社も手を挙げていますから、どんどん増える見込みでいけた時期だったと思います。

(富永委員) かなり夢と現実をミックスしなければならない部分がありますから難しいですが、夢を考えれば80,000人でもいいような気もするし、3,000人を可能性として見込むというのも現実的なのかなと。

(村本委員) 今議論したような事情であるなら76,000人位が妥当な数字かな。皆さんどうですか。宜しいですか。

よろしいようなので、将来の推計人口は76,000人という事に致します。

次に審議事項の2番目将来都市像について、事務局から説明願います。

(吉田主査) ~資料に沿って説明~

(村本会長) 皆さん、何かございましたら。

(井関委員)よく、自然という言葉、使うけど北海道だったら、どこの町も豊かで、どこでも大切なことで、使われるから、それよりも、みんなが元気で、健康な住みやすいまちとか言ったほうが良いような気がします。そういう軽い感じでいいのかなと。半分ベットタウンで、半分農・商・工があって総合的なまちだから、色んな分野の人たちが集まっている町なので、お互いコミュニケーションをとりながら、住みよいまちを作っていきましょう、と言うようなものがあるのかなと。

(島田委員)第3期総合計画のときの「水と緑豊かな複合機能都市」というのは、非常に的を得た将来都市像で、若干表現は硬いのですが、おおむね、間違っていないのかなと、思いました。それで、今度の10年ですけど、やはり、前期の流れを踏襲するのがいいのかなと思っていて、そこから少し固さを取って考えたんですが、なかなか絞りきることができなくて、「自然に恵まれ資源を活かす生活都市」「恵まれた自然と資源を活かした生活都市」というのがいいのかなと考えてきました。

(玉川委員)最近の様子を考えると、他人任せの部分が常にどこかにあるのではないかな、というのがあります。自分の住んでいる場所だけが、良ければいいという考えがある感じがするんですから。本来はそうじゃないでしょうと。やはり、道路1本にしても、役所が作るものとか、除雪にしても役所がやるのが当然のことだろうとか、それでいいのかなと。やはり、恵庭市民として、市のことを思えば、みんなで動いて、協働で物事を進めていくのが当然ではないかと。そういった思いがありましたので、「市民が手と手をつなぎ未来を共に作るまち」と考えました。本来の自然という面と、市民がみんなで作り上げてきた、花などの自然という2つの面があると思います。そういったことも、本当はキーワード的に入れることができればもっといいのかなと思います。ハードも大切だと思いますが、参考例で、他市のものを見ると、対外的な発信を意識している気がしますが、うちの場合は恵庭市民を相手に発信するべきだと思いますので、できれば、ソフト的なもの、笑顔とか、やすらぎなどを入れたほうがいいのかなという感じがしています。

(神田委員)花が、やはり今皆さん意識していて、まちがきれいになっていっているし、それを入れ込んだ中で、子育てもしやすく、高齢者にもやさしく、環境のこともよく考えた、ものがいいのかなと思ったので、まとめきりませんでした。そんなことが、入れればいいのかなと思いました。

(橋本委員)思いやりとか、心を大事にするようなものが、入ればいいと。学校でも地域社会でも、やさしさが、どんどん少なくなっている社会情勢ですから、心を大事にする、やさしさ、思いやり、と言うのが入っていて欲しいと思います。

(富永委員)「水と緑と花に彩られ、人のふれあう元気なまち・恵庭」と考えたのですが、水と緑というのは、自然環境の最たるものですが、後は人が関わって、花を作っている、これを自然環境の特色として捉えています。もう一つは、まちづくりが人のふれあいによって作られていく、市民参加のまちづくりという、元気なまちという部分も必要かなと、自然と人間を両方を表現してはどうかという考えです。

(村本委員)先日ニュージーランド、ティマル市のアネア市長が講演しましたが、その中で緑が多いと病気も減って健康になる、犯罪も減ると言っていました。日本は何かあると全て規制をかけてしまう。例えば子どもが水に落ちた、そしたら、水に近づくなとやってしまう。落ちるということ、教える部分が、欠けている。ごみを捨てるなど規制しますが、たくさん捨ててくださいとはやっていない。捨てる人が増えたほうが、まちは綺麗になるのではないかと。じゃあ誰がやるのかということ、行政でも、町内会でもなく

て、それぞれの市民がやっていくほうがいいのかと。基本的にそういったことを考えていけば、素晴らしいまちになっていくのではないのかなと。何でも行政がやるのが当たり前ではなくて、自分たちも合わせて、どう地域をよくしていくのか、と考える人を増やすことが大切ではないのかなと。例えば、除雪でも、身体の不自由な人がいたら、そちらを先に除雪してくださいとか、自分の家の前は自分でやっていく人間がふえていけば。これは、福祉でも何でも大きく関わってくるのは、やはり、人だなど。町内会も、もっともっと活用していければ、町内会は素晴らしい力を持っているのではないかなとおもいます。表現する言葉は難しいけれども、市民が中心となる都市像になって欲しいと思います。その後に、福祉でも、経済でも、何でも枝としてついてくるのかなと思います。

(井関委員)工業関係で、よそから来る企業もたくさんありますが、私は工業団地の企業の集まり、工友会がありますが、やはり、企業もよそ者だからいいんだということではなくて、恵庭の一団体だから、地域づくりにかかわっていかねばという話をしています。やはり、そういったときに、恵庭は、こんなまちを目指しているというのが解りやすい、印象に残るようなものが、恵庭に来ている以上は、従業員も、企業も恵庭の一員であるというのが、伝わるようなものであってほしいと思います。

(村本委員)短かめがいいと思いますが、決して語呂だけにこだわらないで、見て解るようなものがあると、思います。そのかなに町の姿が浮かんでくればいいのかと。

(井関委員)最近町内会もまとまりがあんまりよくないというような話も聞きますが、工業関係なんかは最近だいぶまとまりが、良くなってきているかなと。

(村本委員)町内会も広報の配布とかいろいろあって、大変そうなんですけど、何とかもっと色々地域のみんなが議論できるような場になってくれれば、もっと活動の可能性は広がると思います。

(富永委員)みんな実際活動すると、例えば、花植えなんかも、最初は文句言う人が多かったけれども、3年、4年もすればみんなにも言わなくなったりしています。市が行っていることや、考えももっと伝わると、お互い一緒に働けて、つながりが深くなるのかなと。自然だけでなく人の生活も取り上げないといけないのかなと、思います。

(島田委員)我々、何回か会議開いてますが、将来のまちの姿とかについて話をしたりしていますが、ピラミッドの頂上をそろそろ決めないと、語尾とか細かい表現は微調整を残しておくとしても、ある程度まとめていかないと、次に部会を開いて議論しても、少し焦点がぼやけて、先送りになってしまうので、決めたほうがいいと思うんですが。今資料で配ってもらったものの中で、札幌市は「北方圏の拠点都市」とありますが、恵庭でこれはありえませんか。そういう意味では、10年前の水と緑の都市というのは、よかったと思うんです。それで今、都市としての機能は充実しているので、壊れたところを直したり、ソフト面に重点をおいて、これから10年はやっていかなくてもいいということを考えて、ひとつの形として、出したほうがいいのかなと思います。

(村本委員)基本的に、今まで一番ずっと出てきているのは、人なんですよ。住んでる人が中心になるという考え方で。

(島田委員)花とか水とか緑も、ずっと出てきているので、ここであっさり切ることはできないのかなと。ここまでの流れをなくしてしまうと、恵庭の一つの個性が消えてしまいますような感じがして。ですから、そういった以前からの流れを残すのと、人のつながりがいいということと、安心安全で暮らせることも入れていければなど。後はキーワードの

組み合わせかなと。

(玉川委員)「花・水・緑の中で人がふれあい笑顔が輝く元気なまち」というのはどうでしょう。今、話した中で組み合わせてみたのですが。

(村本委員)笑顔が入っているとみんなが元気という良いイメージが伝わってきますね。行政サイドではなにかありませんか。

(竹村部長)例として示している部分がそうですが、市役所内部においても、やはりこれで行くといったように絞り込む事は出来ませんでした。ただ、大きく分けて3つあるとおもいます。まず、町の姿、例えば水と緑と花に囲まれているといったような部分が一つありますね。2つ目には、協働とか、コミュニティとか中の仕組みだとかそういった姿があります。最後3つ目は健康や福祉、みんなが元気でいられるか。といったような大きな三つの要素があるのかなと思います。

(富永委員)もっと言うと、大きくは自然と人の二つかな。

(島田委員)第3期のときの複合機能都市というのはどういった考えでしたか。

(竹村部長)ハイコンプレックスシティ構想といいまして、職・住・遊・学が恵庭で全て間に合うという考えで、単なるベットタウンでなく、住むだけでなく、仕事も出来て、学校もあって、そういったことから研究機能という事で恵庭RBPも出来たんですが、そして、遊ぶ事もできるという。恵庭が自立できるように、恵庭でいろんなことが出来るように、高度な機能を備えた都市を目指して、複合機能都市という考えがあります。

(島田委員)最後に生活都市とつけた案にしたんですけども、前の流れも汲んで、ハード的なものはある程度整ったまちになったから、生活しやすいまちという事で。水と緑とか、笑顔とかは、形容詞なので、どんなまちがいいのという事をあらわしていると思うんですけど、最後に生活都市とすることで、前に出てくるどんなふうになったらいいのというものを受けたほうがいいのか。「水と緑と花に彩られ笑顔輝く生活都市」とかどうでしょう。

(井関委員)4つのまちの姿がありますが、どれかを抜き出して、強調するというわけには行きませんか。

(竹村部長)やはり、今議論されている将来都市像が中心となって、そこから、4つのまちの姿に繋がっていくような、ものであって欲しいと。

(村本委員)「花と水と緑に彩られ人がふれあい笑顔輝く生活都市」と皆さんののを極力詰め込んだらさすがに長いですね。

(島田委員)「水花緑手と手をつなぐ暮らし働く生活都市」これで、4つの姿をあらわせるかな。

(富永委員)元気や笑顔でも全てを表せる気がします。元気はまちにも人にも通じるし、福祉や教育や、協働が充実して安心して、みんなで様々な交流ができて生活していければ笑顔になるし。活性化もどちらにも通じるのかなと。

(島田委員)「花のまちやさしさと笑顔あふれる生活都市」というのは。

(村本委員) 人・花・水・緑・人。人と人の間に恵庭の特色みたいなものが全て、入っていくような構成にできればいいかな。

(島田委員) なかなかこういったものを決めるのはちょっと今日だけでは難しいと思うので、今いくつか出てきたものを事務局でまとめていただいて、いくつか候補を絞ってもらって、7日の日に審議委員さん全員で投票ということでいかがでしょうか。

(村本委員) 基本的には長すぎないほうがいいでしょうね。

(橋本委員) 何とか、4つのまちの姿がイメージできる文言が入っていればいいかなと。

(竹村部長) それでは、「水と緑と花に彩られ人がふれあい笑顔輝く生活都市」を基本に、短くしたり、組み合わせたり、また、今日出ている意見を参考にして、いくつか候補を作成して、7月7日に審議会の全体会で投票して決定していただくということで宜しいでしょうか。

(村本委員) 宜しいですね。それでは本日の第2回総合調整部会を終了いたします。

終了 15時50分